



名古屋いのちの電話

1987年度事業報告

容内鑑眺るせし對き

羨斗鑑眺るせし對き



Photo 文珠 幹夫

坂村真民「愛の道しるべ」より

光る	光を受けて	他から	光らないものは	みずから	ひとつとしてない	光らないものは	光る	すべては	光る	光る
----	-------	-----	---------	------	----------	---------	----	------	----	----

1987. 1. 1 - 1987. 12. 31 図 1. 相鑑内別鑑眺るせし對き

数字で示す着実な歩み

— '87年間統計 —

苦難業事與平7801

増加する相談件数

1985年の7月1日に「名古屋いのちの電話」が開局して以来、まもなく3周年を迎えようとしています。1986年の1年間には、9,163件、1987年には、11,708件の電話を受信しました。開局以来の受信件数は3万件を超えています。

このような、利用者の増加傾向は「名古屋いのちの電話」の着実な歩みを表しているものといえます。

1988年4月1日から相談電話を2台にし、さらに利用者のニーズに応えられる体制をつくっています。

多様化する相談内容

「いのちの電話」では、図1で示してある11の項目に相談内容を分類しています。どの項目をとってみても、利用者にとっては、切実で重大な内容に違いありません。

相談内容とその1件あたりの所要時間は図1で知られているように多岐にわたっており、所要時間も男性は平均約15分、女性は平均約29分となっています。「いのちの電話」の相談内容は、「世相を写す鏡」のような傾向があり、この1年間をとってみても、「エイズの不安」などの社会問題がダイレクトに持ち込まれます。これも電話の持つ「いつでも、どこからでも、どんな問題でも」相談できる利点ではないでしょうか。

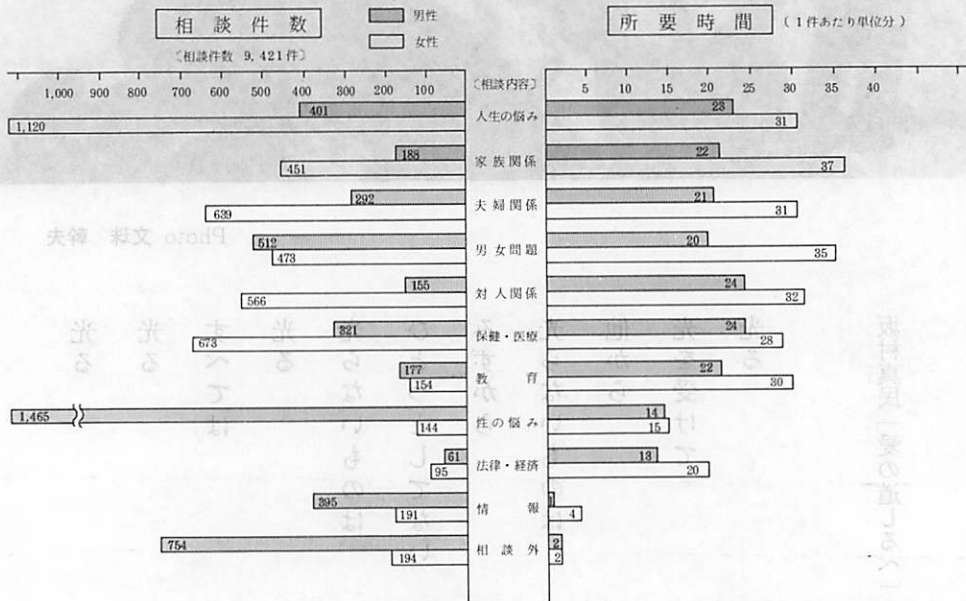
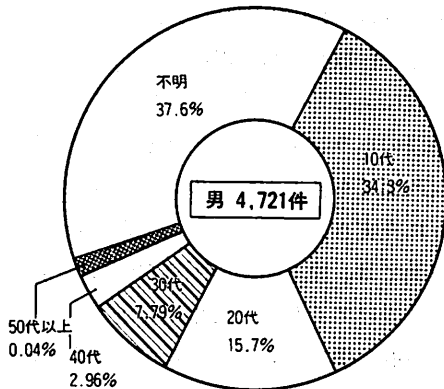


図1. 相談内容別相談状況 1987. 1. 1~1987. 12. 31

孤独な若者たち

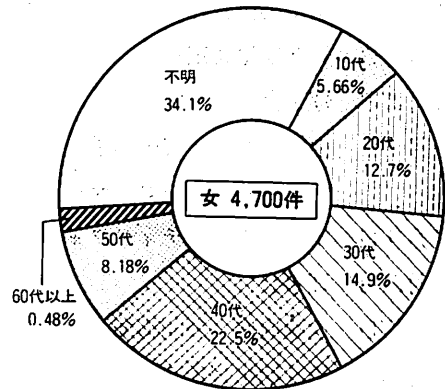
男性からの相談は、10代・20代の青少年で50%を占めています。特にこの年代の男性の相談では、性の不安が数多くみられます。また、学校生活での悩み・男女交際・恋愛問題・家族への不満・人生の生き方など不安定な青年期にひとりで悩む若者の姿を象徴しているようです。

男性の相談件数は、年代が増すごとに激減しています。これは、わが国の社会で男性が自分の悩みごとを進んで他人に話すことを恥とする傾向と大きく関連があるかも知れません。



多い女性の悩み

女性の利用者の半数は、20代から40代となっています。近年、女性の地位が向上したとはいえ、また家庭や社会で多くの負担が女性にしわ寄せされている現実があります。しかも、家族の絆は弱まりつつあり、女性の悩みを家族の中だけで受け止めることはきわめて難しい状況になっています。そういった時、誰にも打ちあけられなかった悩みや苦しみをいのちの電話で受け止めてもらい「解決の糸口が見つかった」「励まされた」という利用者からの声が多く寄せられています。



自殺防止へのかかわり

心痛む“自殺”を何とか未然に防ぎたい……という願いで生まれた「いのちの電話」の活動で「自殺予防へのかかわり」をめきにすることはできません。

1987年の1年間にかかってきた有効相談件数9,421件のうち相談員が「自殺の危険性がある」と判断した件数は、男性57件、女性123件で合計180件でした。これは、全相談件数の1.9%にあたります。その数は必ずしも多くはありませんが、このような緊急の電話1件あたりの相談時間は、平均38分で通話全体の平均時間22分に比べ1.7倍の時間を要しています。

1987年の全国の自殺者は25,524人で交通事故死者は9,347人です。自殺者は交通事故死者のおよそ2.5倍となっています。しかし、交通事故防止対策に注ぐエネルギーに比べ自殺予防に関する社会の取り組みは決して充分なものとはいえません。その中にあるいのちの電話による自殺予防活動の重要性はますます高まっています。

ひとりぼっちで悩まずに……052 (9 7 1) 4 3 4 3

くろしみなやみいっしょに し み じ み

1987年度 事業報告

1985年7月にスタートした名古屋いのちの電話もお陰様で3年目を迎えることができました。皆様のご協力・ご援助のおかげでいのちの電話活動を続けることができましたことを感謝申し上げますとともに、1987年度事業報告をさせていただきます。

1987年度の主な行事

- 4月 基金委員会発足（豊田寿子委員長）
- 4月7日 第2期生認定式
- 5月27日 理事会
- 6月2日 由紀さおり・安田祥子
チャリティーコンサート
- 7月4日 第2回ボランティアフォーラム
- 9月21日 理事会
- 11月17日 遠藤周作 公開講演会
- 11月24日 第3期生認定式
- 11月25日 理事会
- 12月12日 親睦会
- 1988年
- 1月25日 理事会
- 3月14日 } 改装工事
- 25日 }
- 4月1日 相談電話1台が増設（2台で受信）

理事会

1987年度は、24時間体制への足掛りとしてセンター改装・電話台数を2台に増設（財団法人丸紅基金からの助成による）を行うことができました。また、電話相談のボランティアも第2期生・第3期生を迎え、財政面でも各方面からの助成を受けることができ徐々に充実させていくことができました。

人事面では、設立当初の困難な時に事務局長の大任を引き受けてくださった小川義雄さんと、主事として献身的に働いてくださった佐藤加恵さんが相次いで退任されました。一時、事務局はどうなるのかと心配しましたが、幸い後任に経験豊富な笠井康助さんをお迎えすることができました。交替の時期に大勢の方々が事務のボランティアとして助けて下さいましたことは、今後の運営面に貴重な経験になり、心強い宝物となりました。

1988年度もさらに「名古屋いのちの電話」の充実を計り、組織づくり・財政基盤の確立に向けて活動を続けたいと思いますのでご協力お願いいたします。

理事

相馬 信夫
笠原 嘉
川原 恵
川原 啓美
木本 精之助
小山 勇
塚田 道生
豊田 寿子

中堀 仁四郎

長岡 利貞

西沢 信正

ピーター・チョーク

渡辺 亘親

監事

内河 恵一

小林 英雄

財務委員会

1987年度は、名古屋いのちの電話の開設第3年目にあたりました。自殺を未然に防止するのに役立つ「電話による相談」の充実・発展は、相談員の数的な増強と質的な研修向上というソフト面における充実増強と、設備の拡充というハード面での整備がその内容と考えられます。そうして、この相談事業そのものは収入が伴うようなものではなく、むしろ、活動がすすめばすすむほど、経費が増大する仕組みを本質的に保有しているものであります。これらの経費もまた 篤志の賛助・寄付・助成により支えられるという構図のもとにある以上、活動の拡大充実への願いは、賛助会員の増加・寄付者の開拓を伴わない限り、画餅に期する宿命をはらんでいるのであります。

財務委員会の任務は、電話相談の機能とサービスが十分に整えられるための必要経費をいかに充たしていくか、そのために、協力者・支持者をいかに拡大していくかにあります。いのちの電話の経済的側面をいかに整えるかが任務の中心眼目であります。

したがって、開設3年目「草創の時期」から「整備拡充の時期」に向かいつつあるこの年度、財務委員会の課題は、次の3項目に大きくしぼられるかたちとなりました。

① 増大する経費をまかなうために、賛助会費の増強をはかる。

② 寄付金・助成金の新規開拓をはかる。

③ 財政基盤の確立をはかるために法人化を急ぐ。

そのための基金募集を行う。

①の、賛助会員の増強は、開設以来毎年度、設定した目標達成への途次にあります。関係の方々の不断的努力により、徐々に成果をあげつつあるといえます。

	会員数	賛助会費
1985年度	402名	2,322,000
1986年度	466名	2,990,000
1987年度	558名	3,559,000

チャリティーコンサートや公開講演会をはじめ種々の機会に、さまざまな形で払われた努力が「いのちの電話」の理解者の拡大に役だっているものと思われれます。

② 寄付・助成の新規開拓は、主として事務局の尽力に負うところが大きく、この年度はかなりの成果をあげることができました。従来の寄付金助成に加えて、新規に支援いただけた寄付・助成の主なもの次のおりでありました。

電気通信普及財団	100万円
社会福祉法人丸紅基金	300万円
中日新聞社社会事業団	30万円
名古屋ロータリークラブ	30万円
愛知県共同募金会	20万円
東海テレビ福祉文化事業団	20万円

③ 以上の①②の計画を促進するためにも、「いのちの電話」を恒久的に維持発展させるためにも、当初からの悲願でありました社会福祉法人格の取得が急務であり、法人化のための基金として3,000万円の基金募集を実施することになりました。豊田寿子理事を委員長とする委員会が発足しました。社会福祉法人として一日も早く認可を得、さらに広範囲の支援を地域社会より受けられるよう願っています。(財務委員長 木本精之助)

財務委員

木 本 精之助
勝 野 允 夫
加 藤 順 子
加 藤 迪 春
木 島 正 司
小 山 勇
豊 田 寿 子
西 沢 信 正

運営委員会

1987年度の委員会は11名で構成し、毎月1回委員会を開催しました。また特別の行事の企画では、委員以外の方にも手伝っていただきました。「いのちの電話」は、電話相談員と献身的に奉仕して下さる理事の方々や諸委員、またボランティア部の人たちの働きなしには運営ができないことを痛感し、改めて感謝いたします。

さて、昨年度の「運営委員会」では、設立3年目を迎えて「名古屋いのちの電話」の組織や運営のあり方を見直してはどうかということで、検討委員会を立て、問題点を拾い出していただきました。その中で多くの重要な問題点が指摘されましたが、それらの対策を実施するためにはかなりの時間と検討を必要としますので、フォーラムで出された意見も含めて整理し、徐々に運営に反映させていくようにしたいと思います。相談員の相互連絡のための世話人会の発足、相談電話2台の設置と電話室の改修など、懸案の一部はすでに具体化されましたが、まだ組織、運営の改善や二十四時間への移行、また内規の整備など多くの課題を残しております。特に、深夜も休まない二十四時間体制にするためには、まだ相談員が足りません。ボランティアの電話相談員とそれを支えてくださる賛助会員がさらに増えますように願っています。

昨年度の活動で特筆されますことは、NTTのご好意で県内の電話ボックス内に「名古屋いのちの電話」のステッカーを貼ることを認められ、ボランティアの協力を得て、約二千枚を貼ることができたことです。また、恒例となったチャリティーコンサートは由紀さおりさん、安田祥子さん姉妹の演奏が好評で当日券をお断りする程でした。さらに、秋には、遠藤周作さんをお招きして講演会を開催し、公会堂をほぼ満席にすることができましたことは、命と「いのちの電話」への関心が高まっていることの反映と捉え、ご協力に感謝いたします。今後とも活動についての皆様からのアイディアやご意見をお寄せ

いただきたいと思います。

また、「名古屋いのちの電話」の設立に際して、呼掛け人の中心になり、準備期の事務局長として活動して下さった山下政一さんは、カンボジアでの新しい働きのために運営委員をお辞めになりました。大切な人材を失うことは残念なことです。多くの優秀なボランティアが集まっていますので、力を合わせて前進させて行きたいと思います。山下さんの新しい地でのご活躍をお祈りいたします。なお、その他の委員は、留任し、さらに数名の新委員を加えて活動を充実させたいと張り切っていますのでご協力をお願いいたします。（運営委員長 塚田道生）

運営委員

塚 田 道 生
明 比 輝代彦
稲 垣 馨
植 田 望
柿 本 大 真
清 島 須栄子
須 田 静 代
須 藤 よし子
長 井 潤
早 川 顕 一
水 谷 巍

訓練委員会

「名古屋いのちの電話」はボランティアの集まりです。志を持つ人々が、時間、労力、お金を提供し、現代社会のさまざまな問題に直面し悩んでいる人々、孤独に苦しむ人々と電話を通してつながりを持ち、励ましあい、共に生きることを確かめあっているとする運動体です。決して専門家集団による悩みごと相談の機関ではありません。

しかし、いのちの電話が社会に向かって開かれて

いる以上、責任のある、質の高い働きが求められていることを忘れてはなりません。各ボランティアに相談員としての資質の向上が求められているのです。

訓練委員会の主な役割は、志を持つ人々に呼びかけ、自分の資質を研ぎ、その能力を活用するボランティア相談員となるよう援助し、養成することです。さらにもう一つ、相談員が電話相談という困難な働きに携わりながら、相互研鑽し、さらに成長していく機会を提供することです。

訓練委員会はそのために、相談員養成講座、相談員継続研修、ケース研究会、スーパービジョンなどのプログラムの調整、立案を行っています。

養成講座： これまでに、第1期 91名。第2期 39名。第3期 39名の方が認定を受けました。この内、現在約140名が相談員として、毎日午前10時から午後10時の時間帯に電話相談にあたっています。4月1日から1台であった相談電話が2台になり、1日約45件の相談電話を受けていますが、夜間などには相談員が足りなくなることもあります。

このような中で、新しく相談員になろうと応募された37名の方々を対象に第4期養成講座が'88年4月19日から始まりました。この方々はこれから週1回2時間半、計8回の体験学習と1泊研修からなる人間関係基礎訓練、17回の講義、10回のロールプレイによる相談訓練、仮認定の後、実際的な相談訓練などを経て約1年後に認定を受け正規の相談員として活躍していただくこととなります。相当厳しい訓練で、これを通過することは忍耐を必要とすると思います。全参加者が頑張ってください、ひとりでも多くの相談員が生まれることを願っています。

継続研修： 相談員の資質の向上、相互援助による成長を目指して、毎月1回、グループで訓練が行われています。昨年、相談員の有志により「継続研修を考える会」が生まれプログラムの調整にあたってくださいます。今年度は、「人間関係体験学習」「電話相談の実際」「感受性訓練」「TAによる自己理解」「箱庭療法」「組織の行動科学」「精神障害と電話相談」「カウンセリングの技法と実際」な

ど13の課題別訓練グループのどれか一つに全相談員が参加しています。相談員が自発的にこのような訓練の実施についての調整をし、自主的に参加していくのは、いのちの電話の本来の在り方だと思います。

その他の研修： ケース研究会が昨年からは毎月1回ひらかれ、多くの相談員が熱心に参加しました。

また、相談員は1年に1回専門家によるスーパービジョンを受けることが義務づけられており、これもだいたいにおいて実施されました。

上記の研修、訓練を実施するために、名古屋地方在住のそれぞれの分野の多くの専門家42名の方に、講師、グループ訓練ファシリテーター、あるいはスーパーバイザーとしてご協力、援助をいただいていることを感謝しております。「一本のいのちの電話」を守るために、多くの相談員のたゆまない努力、専門家の方々の奉仕的なご協力、運動維持のため浄財を捧げてくださる方々の志、それを集め運営に心を用いるボランティアの努力、そしてこれらを総括していただける事務局の働きがあることを思うとき、その尊さをひしひしと感じます。それだけに、この一本のいのちの電話をこれからも皆で守り育てていきたいと思ひます。

いのちの電話の目指すのは「隣人のよき友となる」ということです。電話相談の場面だけではなく、各自が生活している地域や職場、身近なところで、これを実践することも大切であることを忘れないようにしたいと思います。（訓練委員長 中堀仁四郎）

訓練委員

中 堀 仁四郎
加 藤 雄 一
斎 藤 延 技
戸 田 安 士
佐 藤 興 紀
長 岡 利 貞
西 村 洲 衛 男
山 口 幸 男
山 口 真 人

近藤国親	伊藤藤亥	女之	勝股	か	ね	竹	内	宏	子	片	山	悦	子	今	井	文	子
五藤久美子	高山山	瑞あさ	山川山	亮錦妙	一子子	本宮白	田田井	健喜代	次子子	木林鈴	村木戸	常たか	子枝弘	草森鈴	川木垣	善昭久	子野樹
R. A. Merritt	田山荒	す節貴	山山柳	武佳良	子昌枝	町山	田田田	泰隆正	子哉義	神神玉	置玉田	国一恵	子子尚	石加柳	木藤生	堂三球	子子江
洪谷史朗	森林西	比佐雄	成鶴武	秋輝塩	子信彦	山水津	野野野	道卓亨	子司好	児山明	比輝彦	篤満輝	水林水	谷	温	温	巍
五桶田夏江	伊大	宗太郎	中	谷	子	水	野野野	亨	子	山	比	和	小川	千重子			
石久保俊紘		節				消島恒		徳	須栄子	伊藤秀章							
野村紘子																	
柿本真大																	

＝寄付（団体）＝

日本福音ルーテル希望教会
 日本キリスト教団岡崎茨坪伝道所
 日本キリスト教団豊山教会
 長浦カトリック教会
 カトリック教会
 日本キリスト教団中京教会婦人会
 日本キリスト教団愛知教会婦人会
 城北自動車学校
 聖心布教姉妹会
 日本キリスト教会桜山教会
 愛知守山教会
 カトリック南山教会
 名古屋聖マルコ教会
 聖霊病院
 幼き聖マリア修道会

日本キリスト教団広路教会
 小牧カトリック教会
 日本聖公会中部教区伝道所
 岐阜カトリック教会
 鳴海教会
 愛知教会つばみ会
 近藤家政婦紹介所伊藤幸子
 岡崎修道院
 (財)名古屋キリスト教
 日本キリスト教団名古屋東教会
 日本キリスト教団金城教会
 神言会吉田聖
 日本キリスト教団中京教会
 緑ヶ丘カトリック教会
 聖心会名古屋修道院

カトリック東山教会信徒会
 日本キリスト教団刈谷教会
 カトリック神言会膳棚教会
 財団法人名古屋YWCA
 日本キリスト教団天白伝道所
 日本キリスト教団名古屋北教会
 代倫電業
 カトリック高蔵寺ニュータウン教会
 名古屋ロータリークラブ
 日本キリスト教団愛知教会
 金城学院
 中国料理新名
 一宮カトリック教会
 布池カトリック教会
 尾西カトリック教会

＝助成金＝

愛知県共同募金会 200,000円

＝寄 贈＝

電話加入権 R. A. Merritt
 シルバーフォン NTT東電話局

名古屋いのちの電話は公的補助を受けないボランティア運動です。私たちの活動が24時間体制を実現し、社会福祉法人として認可されるためには、さらに多くの方々のご協力とご援助が必要です。午前10時～午後10時まで受け付けている相談電話2台を維持していくための資金は年間1700万円余です。どうぞ「名古屋いのちの電話」の資金援助にご協力下さい。

＜郵便振替＞ 名古屋いのちの電話 名古屋 1-53758

＜銀行振込＞ 名古屋いのちの電話 東海銀行大津町支店 (普通) 477029

ひとりぼっちで悩まずに

相談電話

052 (971)

4 3 4 3

くるしみなやみいっしょに し み じ み

名古屋いのちの電話 日誌

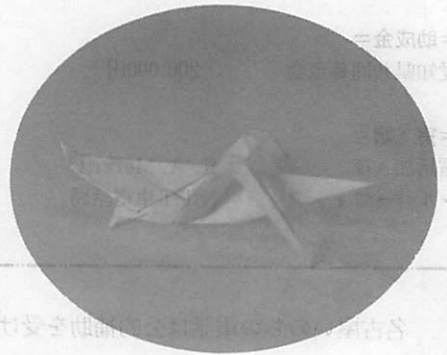
- 1月 9日(土) 近畿・東海ブロック
 10日(日) 主事会(於・京都)
 11日(月) 運営委員会
 18日(月) 財務委員会
 22日(金) 継続研修を考える会
 25日(月) 理事会・訓練委員会
- 2月 2日(火) 世話人会
 4日(木) 日本いのちの電話連盟
 5日(金) 事務局会議(於・大阪)
 15日(月) 運営委員会
 22日(月) 訓練委員会
 23日(火) 近畿・東海ブロック
 統計担当者会議(於・神戸)
- 24日(水) 財務委員会
- 3月 7日(月) 訓練委員会
 11日(金) 財務委員会
 14日(月) 運営委員会
 15日(火) 世話人会
 14日(月) 改装工事
 25日(金)
 27日(日) スーパーバイザー懇談会
 29日(火) 財務委員会
 30日(水) 登録のための研修会
- 4月 9日(土) 第4期相談員面接
 18日(月) 運営委員会
 19日(火) 第4期相談員養成講座開始
 25日(月) 訓練委員会
 26日(火) 財務委員会

相談員はいま……

☆4月1日から相談電話が1台増設され、合わせて2台になりました。1期生、2期生、3期生が力と都合をあわせて、電話を受けています。

☆今年度の継続研修が始まりました。1・2・3期生混成の12グループが編成されました。各グループはファシリテーターを中心に、新たな学習と出会いの場になっています。

☆第4期生の相談員養成講座が4月から開始されました。36名が毎週1回、研修に励んでいます。蒸暑い7月、8月、夏休みもなしに研修は続きます。



【MEMO】

今日も朝からかなりの雨が降っています。
 No. 11, 1987年度の事業報告号やっとできあがりました。毎度のことながらももう少し早くからやっていたらよかったと思いつつ、それでも皆様のお手元に届けることができたとひと安心です。
 '88, 6月29日

名古屋いのちの電話

〒451-91 名古屋東郵便局私書箱 第257号
 事務局 ☎052-971-5181

郵便振替口座 名古屋 1-53758

1988年7月1日 発行
 発行人 相馬 信夫
 編集人 広報委員会